

教育心理学年報 第4集

に困った意見であり、幼児保育には無用の用が是非とも必要なものであり、その観点から、乳幼児保育を拡張することには反対であると論じた。

施設児の心理

石井の研究については、あまり活潑な討議はなかつたが、波多野は Emotional Security についての考え方をのべたあとで、それが欠陥していればどうなるのか、

又、1才以下の子どもにもホスピタリズムが生ずるのか質問したのに対して、石井は子どもは家族を拒否しているようにみえるが、親をしたつているのであり、親との結びつきが強い。また、1才以下であつても Emotional Security を考えることが必要であるとのべた。

(野村勝彦)

18. 教育環境・社会 (2)**406 場面集団活動に関する一考察（そのIII）****——場面展開の過程について——**

○野 口 はつ江(郡山女子短期大学)

松村康平・黒江静子(お茶の水女子大学)

本研究は、物理規定性、志向規定性及び集団規定性の強い場面集団活動が展開する場面のもたらす効果を、3人集団による作業課題解決場面について、①各成員の対物活動、対自己活動、対人活動、対目標活動、②集団の生産性、③集団内相互関係、④問題場面に対する個人の行動傾向の変化から分析し考察したものである。

407 学級集団の研究 一集団構造の記述一

塩 田 芳 久(名古屋大学)

この研究の目的は、権威構造・目標指向構造・社会的接近構造の3次元によつて、学級集団の社会的構造特徴の発達を記述するための、主として方法上の問題を検討することにある。結果は一応満足すべきものであつたが、なお若干の検討を要する点が残されている。今後は、それをも含む集団學習過程とその条件の研究に進みたい。

408 学級内における交友関係の形態 (1)

東 清 和(早稲田大学)

中学生の学級内における交友行動を、面接法と参与観察法により3カ月間にわたつて調査し、その結果を類型的に分析した。主として、顕在的な交友行動とその関係構造、役割期待と知覚、交友歴、将来における関係づけ持続の展望等から、遊戯型、情報交換型、理知型、意志疎通型および求護型の5つの基本的形態をえた。

409 学級内地位と対人認知との関係**について**

堀 洋 道(東京教育大学)

地位の高い者(H)と低い者(L)についてお互いの

認知の仕方における特徴を見出すため中学生に4種のメジャーを用いた。その結果共感性は他者については $L > H$ 、自己については $H > L$ 、投射性は女子で $H > L$ が顕著であつた。HはLを低く見ているがL自身はそれよりよく見ているだろうと考えやすい点などの問題点が認められた。

410 話題の特性と意見変容

原 岡 一 馬(佐賀大学)

意見変容に当つて、意見の対象である話題の特性により、その程度及び方向に違いが生ずることをあげ、その解明には、被験者と話題との関連性の分析が必要なことを述べる。その分析の次元には、前研究であげた話題の解釈可能性の他に、1) 被験者の関心度、2) 被験者の自我関与の度合、を提唱するものである。

討 論 の 概 要**部会の特徴**

本部会の討論においては、主として東(408)の「学級内における交友関係の形態」に関する研究と、原岡(410)の「話題の特性と意見変容」に関する研究がとりあげられた。東の研究に対しては、聴者の側からの意見提出による、当該領域の研究に対する今後の方向の示唆が行なわれ、また原岡の研究に対しては、当発表に用いられている諸概念の明確化を目的とする質疑応答が行なわれた。その他、各発表について、その方法の細部の具体的説明を求める質問があり、その説明によつて聴者は更に具体的理解を深めることができたようである。

本部会ではこのように、二、三の発表に関する質疑応答と、若干の意見提出が行なわれたが、これらの発表、質疑応答を契機とし、問題の考察、理解を一段と深めるような討論、反対意見の提出、あるいは新しい問題領域への展開などはみられなかつた。概しておとなしい討議部会であつたといえよう。